



チョウゲンボウ新聞

十三崖にふたたび舞い戻れ！チョウゲンボウの里整備プロジェクト

長野県中野市



寄付合計

266,000円

目標金額の19%

支援者合計

23人

さとふるクラウドファンディング、 令和4年度は終了！

～23人から、合計266,000円が寄付！～

国指定天然記念物の「十三崖のチョウゲンボウ繁殖地」で集団営巣を復活させるため、令和5(2023)年2月17日より寄付受け付けを開始しました「さとふるクラウドファンディング」は、令和5年3月31日に令和4年度分を終了しました。寄付額は合計266,000円で、23人から寄付がありました。また、「さとふるクラウドファンディング」とは別に、同じ期間に応援団に23,000円の寄付がありました。ご寄付、ありがとうございました。

「さとふるクラウドファンディング」は、応援団事務局でもある中野市教育委員会事務局生涯学習課文化財係が、令和4年12月から準備を開始しました。再びチョウゲンボウが十三崖に舞い戻ってほしいという願いから、これまでの研究結果をベースに集団営巣再生のための具体的な方策を決定した時点で、その事業を実施するにあたり寄付を募集することになりました。



返礼品のチョウゲンボウ土鈴と
応援団で保護している傷病個体

「さとふるクラウドファンディング」には返礼品が設定されています。今回は、この事業に合わせてチョウゲンボウの土鈴の制作を「創作土形工房まちなか交流の家」にお願いしました。また、中野市の特産品である果物やその加工品などについては、「一般財団法人 信州なかの産業・観光公社」にお願いし、準備しました。人気の返礼品は、土鈴とりんごでした。土鈴は7回、りんごは5回選択されました。土鈴はチョウゲンボウのかわいらしさを表現するように制作され、成鳥の雄の羽色となっています。「創作土形工房まちなか交流の家」と中野

市教育委員会事務局生涯学習課文化財係が検討を重ね、完成しました。りんごは「サンふじ家庭用10kg」で、おいしいと評判のりんごです。

「さとふるクラウドファンディング」十三崖にふたたび舞い戻れ！チョウゲンボウの里整備プロジェクトは、令和4年度分はこれで終了しましたが、令和5年度分も実施したいと考えています。実施する場合は、プロジェクトの見直しや、返礼品で人気の土鈴や特産品のバリエーションを増やす予定です。

令和4年度 十三崖チョウゲンボウ勉強会 開催

令和5(2023)年3月19日(日)の13時30分から、中野市北部公民館1階会議室で令和4年度十三崖チョウゲンボウ勉強会が開催されました。今回の勉強会から、名称を「十三崖チョウゲンボウ応援団勉強会」から「十三崖チョウゲンボウ勉強会」に変更し、応援団会員以外の方も参加可能となりました。

勉強会は、まず応援団事務局から「十三崖のチョウゲンボウ繁殖地における近年の営巣状況」の報告を行い、そして講師の京都大学大学院農学研究科森林科学専攻の田中駿さんから、「近畿地方におけるチョウゲンボウ進出の現状と生息環境評価」というタイトルで講演がありました。

応援団事務局からの報告では、これまで実施してきたモニタリング調査の解析結果から、チョウゲンボウの近年の営巣状況、減少要因、集団営巣の形成要因、保全整備への応用について紹介しました。講演は、田中さんの京都大学大学院の修士論文であり、昨年日本鳥学会大会でも発表された内容が紹介されまし



報告を行う応援団事務局

た。チョウゲンボウは、近年日本では東から西へと分布を拡大しています。講演では、近畿地方のチョウゲンボウは以前は冬鳥であったのに、近年は留鳥性が強くなり、都市部で営巣して分布が拡大していることが報告されました。その要因としては、営巣場所は人工物の出入口が狭く天敵が近づきにくい場所を利用していたこと、餌メニューは都市部に特徴的な小鳥類を利用していたことが考えられたということです。そして、チョウゲンボウが近畿地方にとどまり繁殖するようになったのは、近畿地方より東の地域で繁殖できる場所が足りなくなってしまったからなのではないかとのことでした。

今回の講演内容と比較しますと、十三崖周辺でも営巣場所の不足は考えられますし、今後の小鳥類の利用についても考慮する必要があります。十三崖を含む北信地方の個体群の再生については、現在進行中



講演を行う田中さん

の巣箱の設置による営巣場所の増加という方向性は一致しています。そして、利用できる餌量の増加の方法を具体的に考える必要があることがわかりました。

また、チョウゲンボウ新聞39号でもお伝えしましたが、近畿地方ではチョウゲンボウの年2回繁殖が他の地域より多いようです。猛禽類であるチョウゲンボウの年2回繁殖は興味深い現象ですが、地域の個体数の増加にも有効だと考えられます。年2回繁殖の要因解明も、

今後期待されます。

今回の勉強会の講演では、十三崖のチョウゲンボウの集団営巣再生のヒントがありました。近畿地方は十三崖からは遠く離れていますが、異なる地域の異なる環境での状況が参考になることがわかりました。これからも、チョウゲンボウ、鳥類に限らず、勉強会では様々な内容の講演を開催していきたいと考えています。

十三崖と周辺の営巣状況

現在、十三崖周辺ではチョウゲンボウの飛来は確認されていません。十三崖では、これまでチョウゲンボウが最も利用していた「横穴」に、今年もハヤブサが営巣しています。

周辺の繁殖地では、今年はチョウゲンボウの飛来が遅く、人工物にある集団営巣地では、昨年より2週間ほど飛来が遅れました。中野市を含む北信地方は、この冬は積雪が少なく、繁殖地への早期の飛来が予想されましたが、それに反し遅い飛来は意外でした。その要因としては餌量の少なさが予測されますが、詳細は不明です。

個体の飛来時期は遅れましたが、十三崖周辺の繁殖地では昨年と同様の営巣状況が確認されています。そんな中、応援団会員の重岡昌子さんが、3月下旬に北信地方の2個体のチョウゲンボウの追跡調査を実施しましたので、ここで紹介します。

2個体のうちの1個体は、中野市の北部で3月上旬に標識され、落下式の発信機が装着されているオス成鳥です。この個体はその後中野市の中央部に移動し、若いメスとともに人工物の穴に出入りしていて、交尾も確認されています。しかし、この営巣場所は、これまで営巣の記録がなく、メスも若い個体なので繁殖が成功するのか注目されます。このオスは、営巣場所から1km以上離れた農地まで採餌に出かけています。その場所でトカゲ類を捕らえ、そこでは食わず高く上昇したそうです。

調査対象となったもう1個体は、人工物の集団営巣地で3月上旬に標識され、落下式の発信機が装着されているメス成鳥です。この個体は、メスにしては尾羽が青みがかっています。チョウゲンボウの観察をしていると、



チョウゲンボウ 追跡オス個体 撮影:重岡昌子

このようなメス成鳥もよく見かけます。このメスもつがいを形成しており、人工物の穴に出入りしています。交尾も確認され、オスから求愛給餌も受けています。行動圏は、現在は巣周辺に限られています。この集団営巣地には6つがいから7つがいのチョウゲンボウが営巣しています。



チョウゲンボウ 追跡メス個体 撮影:重岡昌子

これらの単独営巣や十三崖ではない集団営巣地の個体を調査することからも、十三崖の集団営巣の再生のヒントが得られます。北アメリカに分布するカリフォルニアコンドルは、その減少要因がなかなか究明できず、1980年代には野生個体は全て捕獲され飼育下に置かれました。その後飼育による個体数の増

加と野生復帰により個体数は回復しましたが、一時危険な状態に陥ったのは間違いありません。個体数が減少した場合、その要因の解明と回復のための方策の決定は急ぐ必要があります。十三崖を含む北信地方のチョウゲンボウが、そのような状態に陥らないよう研究を進める必要があると考えられます。

信州大学教育学部附属志賀自然教育研究施設研究業績における論文発表

応援団事務局である中野市教育委員会事務局生涯学習課文化財係と応援団会員らで作成したチョウゲンボウに関する研究論文が、信州大学教育学部附属志賀自然教育研究施設研究業績60巻に掲載されました。ホームページアドレス <https://soar-ir.repo.nii.ac.jp/records/2001419> で閲覧

することができます。論文のタイトルは、「長野県北部のチョウゲンボウ集団営巣地におけるメス個体間の干渉回避」で、北信地方にある人工物の集団営巣地のメス2個体の行動を観察した結果がまとめられています。

チョウゲンボウは、アフリカ大陸からユーラシア大陸まで広く分布しますが、集団営巣を多くの地点で毎年のように行っているのは日本だけです。その多くの集団営巣地は、十三崖を除くと全て人工物で、つがいはその横穴

などに営巣しています。最大で10つがい以上にもなるチョウゲンボウの集団営巣地は、個体が密集しているわけですから、個体間の干渉行動があるように予測されます。そこで、今回の研究では巣が隣接する2つがいのメスの干渉行動がどのくらい起きたか、行動圏はどのくらい重なっていたのかを、落下式の電波発信機を装着した個体の追跡から明らかにしました。

調査の結果、巣間距離は60mと近かったにもかかわらず、干渉を行った時間の割合は低く、同時期の行動圏は重ならないことが明らかになりました。このことから、集団営巣地のメス個体は干渉を回避していると考えられました。この結果は、十三崖での巣穴整備等に有効な情報となります。詳細は、本文をご覧くださいいただければと思います。

中野市Vtuber信州なかのちゃんとチョウゲンボウがコラボし、動画になりました！

中野市公認Vtuber信州なかのちゃんと、長野県から依頼され応援団が保護している傷病個体のチョウゲンボウ「ちょうすけ」がコラボし、動画が配信されました（<https://www.youtube.com/watch?v=EaiZaVQa8jQ>）。

信州なかのちゃんは、中野市の広報誌「広報なかの」でもたびたび掲載されているVtuberですが、巡り逢いの神様なんだそうです。日々中野市の魅力を発信すべく飛び回っているようです。

チョウゲンボウの生態について、「ちょうすけ」がクイズを出題。信州なかのちゃんと一緒にクイズに挑戦してみたいかたがでしょうか。



「信州なかのちゃん」チョウゲンボウ動画のサムネイル

この動画の中では、「さとふるクラウドファンディング」にもふれられています。

応援団の活動

3月19日
3月31日

令和4年度 十三崖チョウゲンボウ勉強会開催
応援団が協力する「さとふるクラウドファンディング」終了

会員数 4月10日現在 244名